

いわき農林水産ニュース

ふくしまからはじめよう。
『食』と『ふるさと』新生運動ニュース

平成29年5月号（第147号） 発行 5月25日

目次

- ・【特集】「ふくしま。GAP チャレンジ宣言」……p.1
- ・ロボットトラクタ実証見学会開催……p.4
- ・外国の報道関係者へ当地の野菜の安全性 PR……p.4
- ・いわき市宮芝山牧野の開牧式開催……p.5
- ・「緑の募金」街頭募金実施……p.6
- ・直売イベント「いわき市場の日」に参加……p.6
- ・(株)平木材市場記念市開催……p.7
- ・いわき地区広域営農団地農道整備促進期成同盟会開催……p.8
- ・リンドウ栽培指導会（4月）開催……p.8
- ・第1回コンプライアンス研修会開催……p.9
- ・6次化商品紹介……p.10
- 〔お知らせ〕
- ・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果……p.10
- ・試験操業の状況……p.12
- ・イベント情報……p.12
- ・いわき農林事務所各部業務紹介……p.13

【特集】GAP

Good Agricultural Practice

グッド・アグリカルチュラル・プラクティス

福島県、JA 中央会

「ふくしま。GAP チャレンジ宣言」発表！！

第三者認証 GAP の取得日本一を目指し、「ふくしま。GAP チャレンジ宣言」が打ち出されました。いわき地方でも、第三者認証 GAP の取組が進んでいます！

5月15日（月）、県とJA中央会は、県産農林水産物に対する風評払拭、更なるブランド力向上と消費者から信頼される産地づくりを進めるため、「ふくしま。GAPチャレンジ宣言」を発表しました。2020年度までに県産農産物出荷販売数量の半数以上を、認証を得た生産者の産品で占めるという目標を掲げ、県全体で第三者認証GAP認証361件の取得を目指します。

いわき地方でも、GAP普及の推進に取り組んでおり、このほど、サンシャイントマト出荷協議会の構成員である（農）大野水耕生産組合、（有）とまとランドいわき、あかい菜園（株）、（株）JRとまとランドいわきファームの4法人が、第三者認証のJGAP認証を取得しました。

サンシャイントマト出荷協議会が第三者認証制度の導入を検討したのは、取引先からの要望や今後の経営の改善がきっかけでした。県の補助事業が活用できることから、構成する4法人が揃って認証の準備を進めてきました。

今後、農林事務所では、サンシャイントマト出荷協議会の取組事例をモデルとして、第三者認証GAP取得のさらなる普及拡大に向け、積極的に推進してまいります。



（大野水耕）
圃場の現地審査



(あかい菜園)

入場前に手指の消毒を行う。奥はカーテンで
ゾーニングされた資材置場・選果場

GAP 取得者の声

各生産農場では、これまでの運営内容の見直しや細かなリスク検討など、それぞれの実情に応じて改善が進められました。現在は、従業員が積極的に農場運営の改善を提案する場面も増えました。

サンシャイントマト出荷協議会とは？

サンシャイントマト出荷協議会は、「サンシャイントマト」の有利販売実現に加え、トマト栽培技術の向上、大量ロットによる販売力強化、連携したPR活動等を行うことを目的として設立されました。今回GAP認証を取得した4法人のほか、販売関係者としてJA 福島さくら、全農福島、市場関係者として(株)平果・(株)宮果・福島中央青果卸売(株)で構成されています。



(JR とまとランドいわきファーム)
休憩室前に経営方針・圃場ルール等が
掲示されている

GAPとは？

GAP (Good Agricultural Practice) とは、「農業生産工程管理」のことで、これまで経験や勘で行ってきた生産工程に基準を設け、記録して点検をすることで、安全で品質のよい農産物生産につなげようというものです。

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会の食料調達基準としてGAPが要件のひとつになるなど、安全性を消費者や流通業者へ客観的に説明できる方法にもなっています。

「GAPを取得して、新たな販路を！」ということに注目しがちですが、GAPの基本的な考え方は「食品の安全」「環境の保全」「労働の安全」を実現することです。これは、ムリ・ムダ・ムラの無い経営につながるものであり、GAP取得を通して、日々の仕事の目標が明確になり、自身の農業経営の見直しや職場の意識向上にもつながります。

県では、県産農産物の風評被害払拭対策の一環としてもGAPの取組みを推進しており、第三者認証GAP (GLOBAL G.A.P、JGAP、県GAP) 取得のための指導助言や補助事業の活用も推進しています。

GAP取得を促進する支援事業「第三者認証GAP取得等促進事業」について

本年度より、県では「第三者認証GAP取得等促進事業」を創設し、県内農業者の第三者認証GAP（GLOBAL G.A.P、JGAP、県GAP）の取得を支援しております。

事業の内容は、農業者、農業法人、出荷団体などを対象にして、第三者認証GAPの取得に必要な負担を定額で補助いたします。

詳しくは、いわき農林事務所農業振興普及部へお問い合わせください。

(1) 事業内容

メニュー	事業実施主体	補助率	補助対象
第三者認証GAP取得・継続支援 (GLOBAL G.A.P、JGAP、県GAP)	・農業者 ・農業生産法人 ・出荷団体 等	定額 (10/10)	GAPに係る資質向上 ・GAPに関する研修の実施 ・指導員要請等研修への参加 農場のGAP実践導入 ・認証に必要な放射性物質、水質等の検査 ・GAP指導員等による農場点検 ・GAPマニュアルの作成 等
団体認証取得産地への支援	・県域農業団体 ・県域出荷団体 等	定額 (10/10)	産地の指導員等の養成及び団体事務局の活動推進 ・認証を目指す産地事務局への指導助言 ・具体的な管理方法の研修会等の開催 等

(2) 申請及び申請期日等

①申請及び問合せ先 福島県いわき農林事務所 農業振興普及部 農業振興課
担当：山口技師 電話：0246-24-6160

②申請期日 毎月（25日まで）受け付けます。（必ず事前にお問合せください。）

(3) その他

詳しくは、福島県のホームページ（<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021d/kankyounougyou-17.html>）を参照願います。

第三者認証GAP研修会を開催します！！

(1) 日 時 平成29年6月21日(水) 13:30~16:00

(2) 場 所 いわき市中央公民館文化センター2F 視聴覚室

(3) 内 容 ・第三者認証GAP認証取得までの流れ
・いわき管内の事例報告
・補助事業の内容 等

(4) 問合せ先 福島県いわき農林事務所 農業振興普及部 経営支援課
担当：佐藤技師 電話：0246-24-6161

ロボットトラクタ実証見学会開催

4月19日（水）、いわき市錦町においてロボットトラクタ実証見学会が開催されました。この見学会は農林水産分野イノベーションプロジェクトに基づき、井関農機(株)及び(株)南相グリーンファーム、県農業総合センターで組織された「中型ロボットトラクタ開発グループ」の主催によるものです。

当日は、農業者や農業関係者ら約30人が見守る中、リモコン操作された無人のトラクタの耕耘作業が水田約54アールで実演されました。

このトラクタは、作業範囲と作業回数を、車内に搭載されたコンピュータに設定することで、無人で耕うん作業を行うことが可能であり、労働力の不足等から荒廃が懸念される浜通りの営農再開地域等での導入が想定されています。

今後は、水稻の作業に加え、除染後の農地での保全管理、ダイズ栽培での耕うん・播種、除草剤散布等を試験的に行いながら、実用化に向けさらなる改良を加えていくこととされています。

(農業振興普及部)



(作業を行うロボットトラクタ)



(作業を見守る農業者ら)

外国の報道関係者へ当地の野菜の安全性PR

4月25日（火）、いわき市四倉町の（農）大野水耕生産組合及び（株）ワンダーファームにおいて、中国・香港・フィリピン・韓国・シンガポールの報道関係者の視察が行われました。これは、本県の食品の安全性を広く発信するための外務省主催事業の一環で、郡山市の農業総合センターのモニタリング検査状況を視察したのち、いわき市の施設野菜生産農場を訪問したものです。

視察者は、（株）ワンダーファームで、トマトを使った昼食を味わい、続いて隣接するトマト圃場を見学しました。（農）大野水耕生産組合では、出荷前モニタリング検査、残留農薬検査、化学農薬の使用量を大幅に抑えるなど、安全に配慮した生産を行っていることの説明を受けました。

また、車いすでも入場でき、子供の目の高さにな実がなっているなど、消費者に配慮したハウスの構造にも興味を惹かれた様子でした。

今回の事業を通じて、本県の野菜の安全性への理解がますます進むことが期待されます。

(農業振興普及部)



(報道関係者による
大野水耕いちご園の視察)

いちごの品種の味の違いや品種特性についても熱心に質問し、特にこの時期、本県オリジナル品種「ふくはる香」が大変甘くおいしいとの感想を寄せていました。

いわき市営芝山牧野の開牧式開催

4月27日(木)、いわき市営芝山牧野の開牧式が行われました。当日は、繁殖雌牛14頭が放牧されました。放牧は牛のストレス軽減や健康を向上させる効果があり、11月30日頃まで行われる予定です。

芝山牧野では震災前、繁殖雌牛80頭が放牧されていましたが、原発事故後は放射能汚染により牧野の利用を自粛していました。平成26年度から試験的に約5ha規模で放牧が始まり、年々草地更新を進めた結果、平成28年度に全面積(50ha)で利用が可能になりました。

なお、来月には川前地区の荻牧野においても放牧が開始される予定です。

(農業振興普及部)



(開牧を待つ繁殖雄牛)



(放牧された繁殖雄牛)

「緑の募金」街頭募金実施

4月22日（土）にいわき市緑化推進委員会主催の「緑の募金」街頭募金がいわき・ら・ら・ミュージウ及びアクアマリンパークにおいて行われました。

毎年、4月1日から5月31日までの「緑の募金運動推進期間」の一環として実施されており、今回は、いわき市立汐見が丘小学校緑の少年団、サンシャインガイドいわき、磐城森林管理署、いわき市森林組合、県造園建設業協会いわき支部、いわき農林事務所が参加しました。

当日は、汐見が丘小緑の少年団24名をはじめとした参加者が、地元商店街の方や観光客など多くの方に募金の呼びかけを行い、募金してくれた方に感謝の言葉とともに緑の羽根や花の苗などを手渡しました。

期間中に集められた緑の募金は、緑豊かな潤いのある美しいふくしまのため、緑化の推進、次代を担う青少年の育成、森林ボランティア活動の支援などに使われます。引き続き「緑の募金」にご協力いただきますようお願いいたします。



（森林林業部）

（募金を呼びかける汐見が小緑の少年団）

直売イベント「いわき市場の日」に参加

4月9日（日）、小名浜港にある小名浜美食ホテル主催の直売イベント「いわき市場の日」に、いわき花き鉢物研究会の会員4名が参加し、会員自身が生産した鉢花の販売を行いました。いわき花き鉢物研究会は、いわき市内の鉢物生産者で構成され、今回は消費者の需要把握やいわき市産鉢花のPRのために初参加しました。

当日はあいにくの天候でしたが、アッツ桜、ペラルゴニウム、カーネーション、アルストロメリア、アマリリスといった色鮮やかな商品を店頭で並べ販売しました。イベントに携わった会員は、会員自身が生産した商品の説明を積極的に行ったり、来場者からの質問に真摯に答えていました。

地元産であることや、高品質であることなどから、購入者からは鉢花が好評であり、複数の商品を購入する消費者が多く見られ、会員からも手応えを感じることができたという意見がありました。

農林事務所では、生産者と消費者との交流会等の開催や、ニーズに合った商品提供の支援を積極的に行ってまいります。

（農業振興普及部）



(会員と消費者との交流の様子)



(店頭販売の様子)

(株) 平木材市場記念市開催

4月21日(金)、いわき市内郷の(株)平木材市場で創立59周年記念市及び記念式典が行われました。

式典では、林業・木材関係者約70名が出席し、同社代表取締役社長から、「本日、3,107回目を迎える市を開催できたのは、関係者による支援があったからこそであり、今後も国産材の安定供給に努めるとともに、国産材を活用し地元経済の活性化につなげたい」とのあいさつがありました。

また、平成28年度の優秀買方、優秀荷主の表彰が行われたほか、来賓による祝辞が述べられました。

式典後、市場内で製品及び原木の「せり」が行われ、同社長の元気なかけ声の下、いわき市産材を中心とした製品 1,500m³、原木約 3,000m³が取り引きされました。

(森林林業部)



(平木材市場齋藤代表取締役社長による挨拶)



(原木せりの様子)

いわき地区広域営農団地農道整備促進期成同盟会開催

5月11日（木）、復興再生基盤整備事業「いわき地区」の整備促進を目的に活動している「いわき地区広域営農団地農道整備促進期成同盟会」の総会が開催され、いわき農林事務所では、これまでの整備状況、今後の事業計画や今年度の工事内容について説明を行いました。

当該地区は、市北部の中山間地域の農村振興や地域住民の生活向上を図るための重要な路線として、小川町から四倉町を起終点に、平成3年度から事業を実施しています。

平成29年度は、昨年度仁井田川に架かった橋梁の道路改良舗装を予定しており、完成すれば終点部の四倉町玉山から小川町福岡まで全長約10kmのうちの約9km区間の供用開始が可能となります。

また、小川町の残工事区間については、昨年度より測量・設計・用地交渉を実施中であり、平成29年度には、加路川に架かる橋梁の下部工及びその前後の接続道路工事を予定しております。

いわきの地域振興のため、職員一丸となって平成32年度完了に向けて事業を進めてまいります。

（農村整備部）



（総会の様子）



（現場の整備状況）

リンドウ栽培指導会（4月）開催

4月3日（月）、川前リンドウ生産部会員を対象に本年度2回目の栽培指導会を開催しました。当日は生産者、JA職員及び農林事務所職員ら9名で、4月の管理内容とポイントについて確認を行いました。前月に雪の下となっていたリンドウの芽は、萌芽が始まり順調に生育していました。

指導会では、除草作業や、前年度の枯れ茎を引き抜く残茎処分、病害虫対策などについて説明を行い、3月中の作業管理確認シートを回収し作業状況を確認しました。また、参加した生産者4戸のほ場を全員で巡回し、各ほ場の生育状況を見ながら、管理の改善や施肥の追加調整など、それぞれに合わせた指導を行いました。

会員が互いのほ場を巡回するのは初めてで、ほ場整備や管理の細かい点について、活発な情報交換が行われました。

（農業振興普及部）



(管理内容を説明する様子)



(全員で生産者ほ場を巡回する様子)

第1回コンプライアンス研修会を開催

4月20日、24日、26日の3日間、いわき農林事務所では、今年度最初の所属職員を対象としたコンプライアンス研修会を開催しました。

これは、昨年度職員の不祥事が続いた現状を省みて、二度と同じ過ちを繰り返さない、起こさない職場風土づくりを推進するとともに、危機管理に対する意識向上を図る目的で実施したものです。

滝口次長を講師として、管理職をはじめ課長、主任主査等に対し、コンプライアンスや危機管理の基本理念について説明し、意識向上を図りました。

これからも職員一人ひとりが、高い危機意識と高い倫理観を持って対応できるよう研修を積み重ねていきたいと考えております。

(総務部)



(研修会受講の状況)



(講師の滝口次長)

「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」に

掲載された6次化商品をご紹介します！



大粒なめこを抱える加茂直雅さん

(有)加茂農産では、自家製なめこを活用して商品化した「なめこの佃煮」、「なめこ麻婆」を販売しています。スーパーではなかなか見られない大粒のなめこを使用し、なめこの佃煮は、そのまま食べても豆腐や温野菜の付け合わせとしても相性抜群。また、なめこ麻婆は、なめこ屋さんで親しまれているまかないメニューを商品化したもので、ご飯はもちろん、固焼きそばにかけてもおいしくお召し上がりいただけます。素材の味と鮮度にこだわったなめこの佃煮と麻婆は、JAの直売所、道の駅よつくら港、いわき駅ビルでもお買い求めいただけますので、是非ご賞味ください。

お問い合わせ

有限会社 加茂農産

●いわき市山玉町竹棚1 ●TEL.0246-65-3841
●<http://www.ii-kamo.com>



なめこの佃煮

内容量/220g
価格/800円(税別)



なめこ麻婆

内容量/160g
価格/500円(税別)

“ふくしま地域産業6次化新商品カタログ”は「ふくしま6次化情報STATION (<http://6jika.com/>)」に掲載されていますので、是非ご覧下さい。

お知らせ

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果

□ 農林畜産物の検査結果

平成29年4月にいわき地方で福島県が行った農林畜産物の放射性物質モニタリング検査では、検査した12品目24検体すべてにおいて、放射性セシウムが検査機器の検出限界値以下でした。内訳は(表1)のとおりです。

(表1) 1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

アスパラガス(施設)、タラノメ 1、キュウリ(施設)1、トマト(施設)1、ミニトマト(施設)1、菌床しいたけ(施設)4、菌床なめこ(施設)1、ふき(野生)1、うど(野生)1、もみじがさ(しどけ)(野生)1、牛肉 6、原乳 4、

2月末現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、（表2）のとおりです。

（企画部）

（表2）出荷制限および出荷自粛品目（2月末現在）

制限、自粛	区 分	品 目
出荷制限	野菜・根菜・芋類	無
	果物	無
	穀類	無
	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、 わらび、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ
	畜産物	無
出荷自粛	山菜	さんしょう（野生のものに限る）

□ 海産魚介類の検査結果

福島県沖（全県）で採取された海産魚介類から放射性セシウムが検出される割合は、時間の経過とともに着実に低下しています。平成 29 年4月の水産物モニタリング検査では、689 検体の魚介類を検査し、放射性セシウムの基準値(100Bq/kg)を超えたものはありませんでした。

海産魚介類では平成 27 年 4 月以降、全県で基準値を超えたものはありません。平成 28 年 5 月以降、モニタリング検査で放射性セシウムの検出限界値未満（以下、ND）の割合が95%を超え、平成 29 年4月はND割合が96.6%となっています。

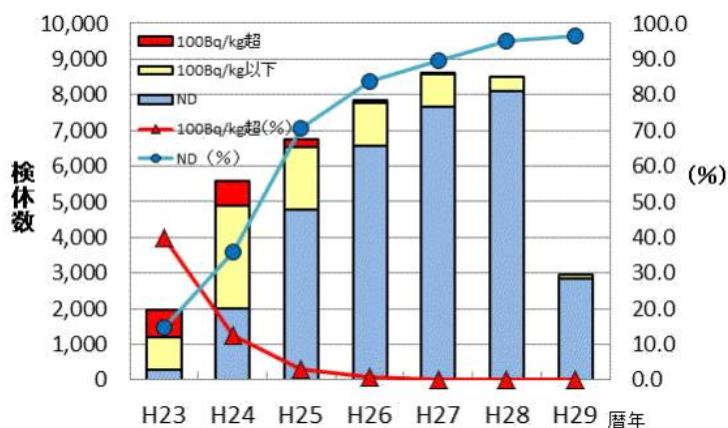
（水産事務所）

（表・グラフ）平成23年以降のモニタリング検体数と放射性セシウム検出の割合

（採取月日で集計(全県データ)）

年		100Bq/kg g超	100Bq/kg g以下	不検出	計
H23	検体数	785	893	294	1,972
	割合 (%)	39.8	45.3	14.9	100.0
H24	検体数	921	2,372	2,287	5,580
	割合 (%)	16.5	42.5	41.0	100.0
H25	検体数	280	2,147	5,214	7,641
	割合 (%)	3.7	28.1	68.2	100.0
H26	検体数	75	1,387	7,260	8,722
	割合 (%)	0.9	15.9	83.2	100.0
H27	検体数	4	896	7,677	8,577
	割合 (%)	0.05	10.4	89.5	100.0
H28	検体数	0	420	8,082	8,502
	割合 (%)	0.00	4.9	95.1	100.0
H29	検体数	0	100	2,838	2,938
	割合 (%)	0.00	3.4	96.6	100.0

H29.4.30現在



試験操業の状況

4月27日に原子力災害対策特別措置法に基づくイカナゴ（稚魚を除く）の出荷制限等指示が解除され、本県海域の出荷制限魚種は11魚種となりました。（水産事務所）

（表1）地区別試験操業計画一覧

漁法	試験操業計画名称	地区別実施状況	
		相双	いわき
底びき網	底びき網漁業	○	○
船びき網	機船船びき網漁業（しらうお等）	○	○
	機船船びき網漁業（さより）	-	○
固定式さし網	固定式さし網漁業	○	○
流し網	マイワシ等 流し網	○	-
	サワラ等 流し網	○	-
かご	沖合タコカゴ	○	-
	かご漁業	○	○
	はもかご漁業	○	-
どう	どう漁業	○	-
	あわび漁業	-	○
採貝	うに漁業	-	○
	ホッキ貝桁網漁業	○	○
貝けた網	タラはえ縄漁業	-	○
	はえ縄漁業（タラはえ縄除く）	○	○
釣り	釣り漁業	○	○
養殖	あさり養殖業	○	○

（表2）出荷制限魚種一覧

制限区域等	適用月日	品目
福島県沖で漁獲された右に挙げる品目	H24.6.22	1 ウスメバル
		2 ウミタナゴ
		3 キツネメバル
		4 クロダイ
		5 サクラマス
		6 シロメバル
		7 スズキ
		8 ヌマガレイ
		9 ムラソイ
		10 ビノスガイ
	H25.8.8	11 カサゴ

イベント情報

「第69回全国植樹祭」大会1年前記念イベント開催！

来年春に南相馬市で開催する「全国植樹祭」の1年前記念イベントとして、参加者による記念植樹、緑の少年団表彰式、全国植樹祭「木製地球儀」とオリジナル「キビタン」のお披露目等を行います。

また、2017ミス日本「みどりの女神」の野中葵さんのトークショーや霊山太鼓、丸太切り等の体験・展示コーナーなど、多くの企画を準備しておりますので、ぜひご来場ください。

- 日時：平成29年6月11日（日）
午前10時～午後3時
- 場所：霊山こどもの村（伊達市霊山町） ※入場無料
（伊達市役所からの無料シャトルバスをご利用ください）

◆問い合わせ先：福島県全国植樹祭推進室
☎024-521-8628



HP

福島県全国植樹祭

検索

本コーナーでは、いわき農林事務所の各部の業務を紹介してまいります。今回は、いわき農林水産ニュースを担当している、企画部を紹介します。

企画部では、特に風評対策や地域産業6次化の推進等の業務に力を入れて取り組んでおります。風評対策に関する業務としては、首都圏の大学生を対象とした「モニターバスツアー」、「おいしい ふくしま いただきます！キャンペーン事業」、「ふくしまの恵み PR 支援事業」等各種事業に取り組んでおります。また、地域産業6次化の推進については、地元農林水産物の生産・加工・販売者等で構成されたふくしま地域産業6次化ネットワーク会員に対して、交流会等を通じた支援を行っております。地域産業6次化ネットワークにご興味をお持ちの方は、ページ末の連絡先までお気軽にお問い合わせください。

その他ご相談、ご要望等随時受け付けておりますので、お待ちしております。

企画部の主な業務

- ・地域農林業・農山村振興の企画・調整
- ・風評対策
- ・地産地消の推進
- ・グリーンツーリズムの推進
- ・地域産業6次化の推進
- ・ふくしまの恵み PR 支援事業
- ・食育の推進
- ・農業団体等の指導監督
- ・農地転用・農振除外等の許認可
- ・食品表示の適正化



(おいしい ふくしま いただきます！
キャンペーンの様子)



いわき農林事務所キャッチフレーズ

このキャッチフレーズには、「燦々と降り注ぐいわきの太陽の光のように、農林業に携わるすべての人に、一日でも早く真の笑顔があふれるよう、所員が一人丸となってスピード感と緊張感を持って目に見える成果を求めていく」という思いを込めています。

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地

(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース